

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22038		事業名	田園環境保全事業				
	事業手法	☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助等 ☐ その他()							
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	09:自然との共生				款	06:農林水産業費	
		施策の方向	02:森林・里山・農地の保全				項	01:農林水産業費	
		重点プロジェクト	-				目	03:農業振興費	
事業期間	H 29 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	亀山市田園環境保全事業補助金交付要綱					

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	産業環境部
課	農林振興課 農林政策G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	農業経営の安定化、持続的な農地保全・耕作放棄地の発生防止を図るため、継続して取り組む者を支援してきており、容易な転作、多面的機能を維持・発揮できる環境は、継続された取り組みで保たれる。	農業者・集落営農組織	景観作物を一団の面積を有する農地への作付けを支援することで、農地を保全し、持続的な田園環境の維持を促進するとともに、転作の推進、耕作放棄地の未然防止、農村景観の維持等を図る。	市内に住所を有する者又は集落営農組織を対象として、中山間地域においては30a以上、その他の地域においては100a以上の一団の農地にれんげ、コスモス、菜の花、ひまわり等の対象作物を作付した場合に補助金を交付する。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	事業計画	○田園環境保全事業補助金の交付		○田園環境保全事業補助金の交付		○田園環境保全事業補助金の交付		○田園環境保全事業補助金の交付	
	活動実績 (計画通り実施できたか)	補助申請者5者に対し、補助金を交付し、407aの作付面積(菜の花・ヒマワリ・コスモス)の実績が得られ、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止に繋がった。また、市フェイスブックやHP等によるPRを2回行った。		補助申請者5者(菜の花・ヒマワリ・コスモス)に対し、補助金を交付した。作付面積については、既存の取組者の面積が増えたが、前年と同じ指標には及ばない485aの作付面積であった。また、市フェイスブックやHP等によるPRを2回行った。					
	計画 予 算 額	事業費	2,800千円	1,368千円	2,900千円	1,588千円	3,100千円		3,100千円
		国・県支出金		0千円					
		地方債		0千円					
		その他		0千円					
		一般財源	2,800千円	1,368千円	2,900千円	1,588千円	3,100千円		3,100千円
	決算 額	事業費		1,368千円		1,588千円			
		国・県支出金		0千円					
地方債			0千円						
その他			0千円						
一般財源			1,368千円		1,588千円				
①期間内計画額(R4-7)		11,900千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額	11,900千円

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	1,588千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	補助金交付件数	年間の補助金交付件数	活動	件	計画値 実績値	7 5	7 5	8	8
	作付け面積	本事業を通じて作付けされた面積	成果	a	計画値 実績値	1,200 407	1,220 485	1,240	1,240
	市フェイスブック等を利用したPR回数	市内外へ農地保全、田園景観の取り組みを情報発信した回数	活動	回	計画値 実績値	2 2	2 2	2	2

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
	B	指標値を達成できなかったものの、補助金の交付により景観作物の作付けが行われ、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止につながった。また、市フェイスブックなどを継続して活用することで、市内外に広くPRすることができた。 補助金要件について検証を行い、補助が適正金額で行われていることを改めて把握することができた。
まずまず成果を得た		

事業の対象	事業の目的
農業者・集落営農組織	景観作物を一団の面積を有する農地への作付けを支援することで、農地を保全し、持続的な田園環境の維持を促進するとともに、転作の推進、耕作放棄地の未然防止、農村景観の維持等を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項	
	補助の増額の可否について検証を行ったが、現状で補助が適正金額で交付されているという結果となったため補助額の見直しには至らなかった。 作付面積については、既存の取組者の面積が増え一定数の成果には繋がったものの、新たな取組希望者が現れず取組面積が伸び悩んでいる。現在の取組者の高齢化や新たに取組を行える担い手不足により、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止への取組が困難になりつつある。	

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの	令和7年度以降で対応するもの
	市内外へPRを行い活動を周知することで、取組面積の増加を図る。	市内外へPRを行い活動を周知することで、取組面積の増加を図る。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	B	B		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	産業環境部 農林振興課 農林政策GL 小澤 栄一
最終評価者	産業環境部 農林振興課長 鳥喰 さとみ